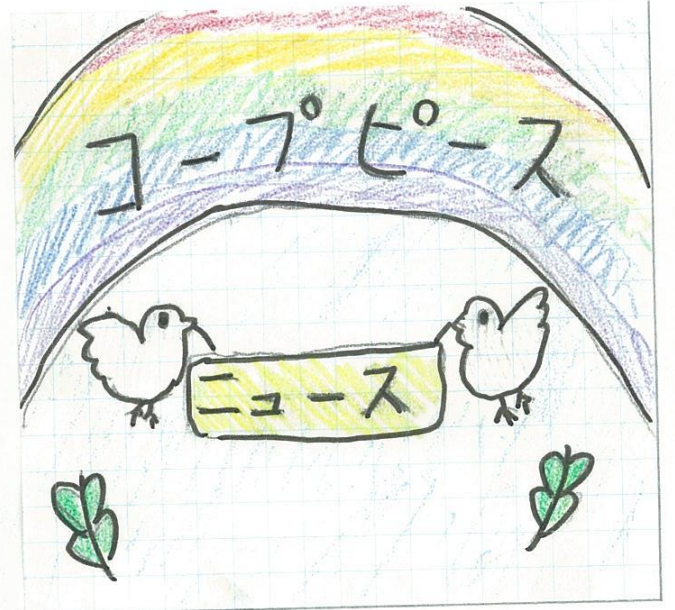


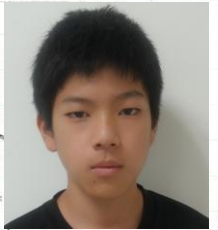
～岐阜空襲教訓をのこす～

コープぎふの子ども平和新聞づくりが岐阜市のハートフル
スクエア G で開かれた。小学5年から中学1年の6人が被爆者
の体験談を聞いて、平和の大切さを学んだ。



開戦から本土空襲へ

岐阜市立茜部小学校6年 早野翔哉



岐阜市平

和資料室友ドウエー海
の会の魚次戦を節目に
さんから本敗北し始め、
土空襲の話太平洋の島
を聞いた。クを失い、
日本は連合米軍からの
国に対して本土空襲に

あい被害は
 拡大した。
 僕は戦争放
 棄や平和の
 大切さを改
 めて知り、
 これからは
 平和な世界
 を築くため
 に戦争につ
 いて学ぶこ
 とが大切だ
 と感じた。

残された物たち

各務原市立鵜沼第三小学校
6

6年 岩田綾音



室を見学し
ました。展
示されてい

持ち主が居なくなつた物は、どのようないでいたのだろうか。

私は岐阜市平和資料

るのは、元
は持ち主が
いて、その
人に大切に
されてきた
物ばかりだ
た。首だけ
が無いおい

なりさんの
置き物、と
けることな
く残ったビ
ー玉とサイ
コロ。残さ
れた物たち
は、今も戦
争の悲惨さ
を私たちに
うつたえ続
けているの
だ。



核兵器の恐ろしさ

可児市立兼山小学校 5年久保田 羽幸己



核兵器と

は、いっし
んで日本列
島がほろび
人が真っ黒
になる、恐
ろしい物の
こと。

校と年久保田翠毛
 核兵器を使

原ばくのわせないと
 ひがいにあ、決めました。
 た木戸さん 私は、ひば
 は、色んなく着がへっ
 国が核兵器ているから
 を使うと、こそ、他の
 軽く世界人に「戦争
 がほろぶ」はダメと
 とおっしやっ いうことを
 ていしました。伝えていき
 そのためにたい。

被爆・戦後80年